三池はまさに〝地獄〟

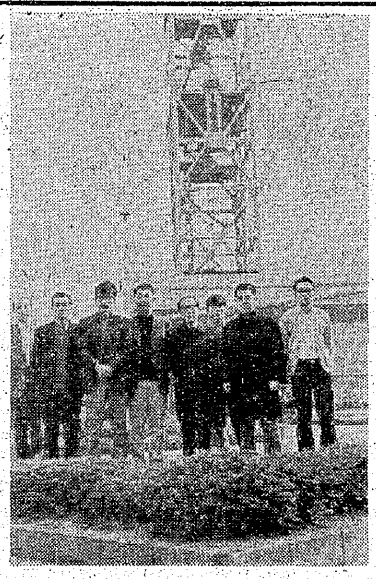
高島と交流保安調査活動

去月二十八―三十日、高島労組から数人の保安調査団が来組すると、こんどは三十日から二月一日にかけて、三池労組から蒲池・労働担当書記次長ら数人が逆に高島炭鉱の保安実態調査のため出かけ、交流を深めた。その結果改めて三池炭鉱の保安実態の劣悪さを、まざまざと見せつけられた。

相互に坑内にもさがって点検し合ったが、昭和四十八年六月から今日までの間に、十一人もの命が坑底で消えている三池炭鉱に比べ、高島の場合はゼロ。

高島炭鉱といえば、坑内で発生するメタンガス量が多く、自家発電を行い、町で使う電力さえ供給しているほどのヤマ。このこと一つ見ても、保安上の違いがはっきりしている。

高島炭鉱の在籍人員は約千五百人。日産二千トン（目標三千五百トン）。三池炭鉱は五千六百六十九人で、日に一万八千トンの石炭を掘っている。（昨年十月現在）資本は笑いのとまらぬ三池も労働者には地獄だ。



四山鉱で、保安請査団

たたかい続ける月星労組

あきれた〝解雇基準〟

ますます固まる団結

月星化成労組は、日ごとに強まるまわりからの支援と連帯をバックに、団結を強めながら千五百人という大量の解雇と、一部工場（三潴）の閉鎖に反対して闘いつづけている。

月星化成は労働者七千人（ほかに、下請三千人）で、そのうちの千五百人を首切ろうというのである。

「これを許せば第二、第三の合理化が必ずくる」――として闘っているが、会社は撤回する気配を見せていない。

このほど手にした同労組のビラで見ると「退職勧奨の基準」が伝えられているが、三池闘争のときの基準とウリ二つにおどろいた。項目を拾って見よう。

×

(1)欠勤・遅刻・早退等が多い者
(2)欠勤・休暇その他会社への届け出に関し、偽りの申告をした者
(3)上司の正当な指示命令に従わない者。
(4)正当な配転命令に対し、拒否的態度を示した者。
(5)協調性に欠け、職場の人間関係の障害となっている者。
(6)職場でせん動的な言動をおこない、業務に支障を与えた者。
(7)職場規律をみだした者。
(8)地位を利用し、私利をはかった者。
(9)みだりに借金して、同僚に迷惑をかけた者。
(10)従員業としての体面を汚す言動があった者。
(11)勤務意欲に欠ける者。
(12)男子四十五歳以上、女子三十歳以上の者。
(13)配偶者を有し、その配偶者に相等の収入がある者。
(14)すでに子弟が成人しているなど、家計負担の少い者。

×

さしずめ、三池労組員にすべてあてはまるものばかり。それ以上にあてはまるのは、ほかでもなく会社幹部自身の方では。

月星化成の労働者は、「闘いはきびしいが、私たちはあくまで職場を守り、家庭を守るために闘う」（ビラの一節）決意をますます固めている。

ゾッとする話

いつまで続く保安不良

各鉱所で、依然として保安状況が改善されず、あぶない個所が指摘されている。

これは、三川開発・保線・部内常一AB職場の新聞〝あせ〟、NO・九五（一月十六日付）の記事。

「毎日、入昇坑六回人車に乗る。その中で聞いた話。

▼三人がけはきつかのう。

○昔は弁当二つ持ってさがるとよかったばってん。いまじゃ洗たくもんから水筒まで持ってこんな

▼そのほかに、冷蔵庫でつくった氷もあるゾ。工具もふえた。工具袋も、太いのでないといばらんごつなっとる。

○持ち物はふえとっとに、昔と変らんごつ三人がけは無理ばん。三人かくると、両端は、そとさん膝ばださんと乗られん。保安部はキチッと乗れちいうばってん。

▼鉱長さん達はさがっても昼ごろあがらすけん、一人でゆっくり乗らるるじゃろけん、三人がけのきつかことはわからんじゃろ。

○三人がけで乗っとるとき、こないだのごたる人車事故のあるなら大ケガばい。

▼人車から、（ほうりださるる。大ケガする前に、なんとかしてもらわんなら」

……

思わずゾッとする話。それが、大災害を二度も経験した三川鉱で見過ごされている事実の一つだからあきれる。

職場新聞の火

▼…職場における諸闘争の推進、という組合方針は、とくに「職場新聞は月一回は必ず発行する」ことをうたっている。それだけ、現在の三池炭鉱の職場の実態、組合のたたかいにとって職場新聞が重要さを増してきていることを示している。

とにかくこの春闘を契機に、もう一度三池の職場新聞活動の火を大きくし、まだ火がついていない職場はこの際努力してもらって火の手があがるようにしたい――と考えている。

そのためにも、今現在活動している新聞を実際に見ながら、この大切な活動の強化に役立てたいものと思う。題して〝職場新聞の火〟欄。

×

はじめに紹介するのは、三川指導部十分会（坑外の人事・材運・選炭・乾燥場・安全灯）の裏を使って、二月十日発行。一面。「カアチャンのサイフは悲鳴をあげている！」と、トップから今一番切実な問題をぶっつけ、以下「石松さん、岩崎さんご苦労さんでした」に、「分会員消息」、「文芸欄（短歌）」。二面は全面とって、連続読みもの「筑豊炭鉱脱走記」（最終回）。

しかも表裏ともすべての記事や手記が理屈ばらずに、あくまで「事実を追及する」ことをこそ命とする新聞の本道をいっている点、高く評価され、見出しも、とかく三池の職場新聞に多い、格式ばりなところもなく、読者をすんなりとひき入れる。

気になることを一つ、二つ。

一面のトップ記事と、次の記事の見出しがタテに重なったこと、「分会員消息」欄が二つに分けられて、別々に組まれたことなど。折角の「カアチャンのサイフは悲鳴をあげている！」記事なら、もっと家計の苦しさとともに、カアチャンのナマの嘆きの声がぶっつけられてしかるべきだったのでは。

その見出しも、もっと太文字で、二段抜きにぶっ通すくらいの大胆さがほしかったです。

題字の〝青空〟も、袋文字より真黒がよいでしょう。

新聞の本道をゆく

気になることも…

青空

〝青空〟。

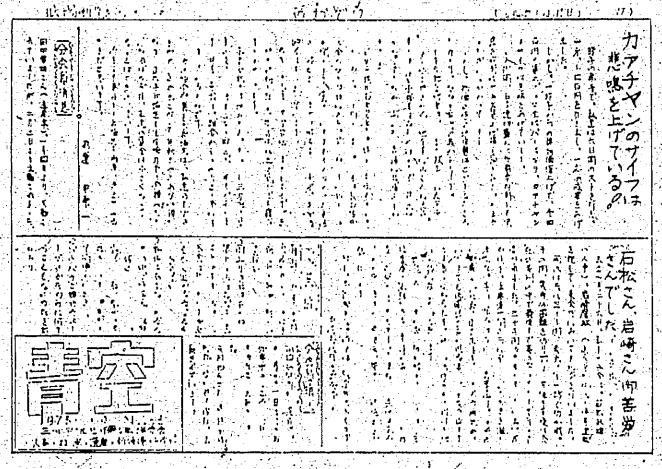
ときどき存在をチラチラ示してきましたが、いつの間には三十三号を数えました。ご苦労さま。

NO・三三は、用紙一枚の表で「事実を追及する」ことをこそ命とする新聞の本道をいっている点、高く評価され、見出しも、とかく三池の職場新聞に多い、格式ばりなところもなく、読者をすんなりとひき入れる。

気になることを一つ、二つ。

一面のトップ記事と、次の記事の見出しがタテに重なったこと、「分会員消息」欄が二つに分けられて、別々に組まれたことなど。折角の「カアチャンのサイフは悲鳴をあげている！」記事なら、もっと家計の苦しさとともに、カアチャンのナマの嘆きの声がぶっつけられてしかるべきだったのでは。

その見出しも、もっと太文字で、二段抜きにぶっ通すくらいの大胆さがほしかったです。



職場新聞〝青空〟の表です。まず何より、親しみ深い見出しが飛びこんできます。

大牟田―公害音頭

へハアー
おらが在所の
自慢をいえばョー
空は灰いろ大牟田空でョー
米も食えなきゃ
野菜も食えぬ
大気汚染の産業地ョー

×

へハアー
おらが在所の
自慢をいえばョー
住民泣かせの大牟田市政ョー
家も建たなきゃ
病気もされぬ
三井かかえの保守市政ョー

……

三川指導部十一分会（CO）新聞〝いのち〟一五二号（一月二十日発行）から。井上文雄さん作。

オルグさんと呼ばれとてもうれしかった

谷本千代子

さきの三池にまなぶ集会参加者が残したメモ二つ。

これまで、学習会という名のうわべだけの学習をしていたように思う。

三池にきて、三川指導部で、沖労働部長より、勤続二十五年の折詰の話、民宿した家でのガス備えつけの話などを聞き、三池のたたかいが生活にあった闘争なのだ、と実感した。

生命と権利を守るたたかいを学習して、自分の生活に基礎をおき、本をそれに合わしたたたかいであったように思う。

まなぶために三池にきたのに民宿先のおばさんが「オルグさんがきてくれた」、といってくれた。三井資本から学んでいるその上に、部外者の私達をオルグと呼び、学ぼうとしている。

三池労組は高年令で、新しく入ってくる人はいない。組合員が少なくなってゆく。でも、家族ぐるみ学び、たたかっている。

私は今、三池病にかかったと思う。長時間かかってもいい、三池病という病気を、仲間と共に治癒していきたい。

初めは不安で仕方なかったが……

愛媛県　大野　久

初めは、むずかしい事ばかり言うのではないか、との不安がありましたが、若葉地域分会の組合員・主婦会員の方々と話しているうちに自然に溶け込み、自分のこまった事などを言うことができたように思います。

ただCO患者の実態、遺族の方々の苦しみ（自分がその立場にならなければ、本当はわからないと思う）、そして三井に対するたたかいを聞いているうちに、この人達は当たりまえの事をしているのだ。その当たりまえの事が、なぜ社会に認められないのだろうか。また、認められないなかで、ただ駄々とたたかっている人々を見て、偉い、立派だ、とひとくちではいえないと思います。

自分が、そして家族が、もしこのようになったらどうしたろう、と考えますと非常に恐ろしく、言葉で表現できないものを感じました。だからこそこのような事は、二度とおきてはならない、また三池の闘いを私達は忘れてはいけないのだと、感じたままの事を職場にもって帰り仲間と討議したいと思います。